

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	日本文化論
科目基礎情報					
科目番号	0173		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	特に指定のものはない。プリントで対応する。				
担当教員	豊田 尚子				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古来の日本文化に関する知見を深めることができる。 2. 文化の消長や変遷に気付くことができる。 3. 資料の扱い方や特性を知り、文化的教養を高めることができる。 4. 資料の特性を生かし、アプローチの方法を提示することができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	資料を適切に扱い、文化的価値やその特性を理解できる。		資料を適切に扱い、文化的価値がわかる。		資料を適切に扱うことができず、その価値を認識できない。
評価項目2	与えられた課題について、独創的な私見を提示できる。		与えられた課題について、正しい認識をもとに意見を提示できる。		与えられた課題を完成させることができない。
評価項目3	資料を正しく観察し、積極的に意見交換できる。		資料を観察し、簡単な質疑や応答ができる。		資料を正しく観察できず、私見を持つこともできない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	専攻科の授業では、日本文化の史的な特徴を、さまざまなジャンルの資料を用いて知見を深めることを目指す。この分野での「資料」とは、研究対象となりうる文献一般を指す。特に専攻科の授業では、活字化された現代の書籍より、原本に近いレプリカや影印本を資料として用いることが多い。手に取れる資料はなるべく実際に触って、その扱い方を学び、資料の構造を観察できる。自分の専門以外の分野でも、対象物を的確にとらえ、私見を持つことを目指している。				
授業の進め方・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典の分野は、高校卒業程度の一般的な知識で対応できる。 2. 授業は、実際にレプリカに触ったり、資料を題材にして作業することもある。積極的かつ丁寧に取り組むこと。 3. 授業内に課題が作成できなければ、宿題として後日の提出を認めることもある。 				
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価はすべて課題作成によることとする。計5回の課題と態度とで評価する。 2. 課題の基準は、その課題内容により、着眼点、観察力、丁寧さ、類推力、情報収集力、分量などで評価する。 3. 貴重な資料を取り扱うこともある。対象とする資料を正しく扱えるかを「態度」の項目で評価する。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス	・ 授業の取り組み方、諸注意などの説明を受ける。 ・ 日本文化論の学術的位置づけを確認することができる。		
	2週	研究方法の提示・1	・ 研究方法について、アプローチの仕方を提示し、ディスカッションすることができる。		
	3週	研究方法の提示・2	・ 研究方法について、アプローチの仕方を提示し、ディスカッションすることができる。 ・ 課題①に取り組む。		
	4週	研究方法の提示・3	・ 研究方法について、アプローチの仕方を提示し、ディスカッションすることができる。		
	5週	研究方法の提示・4	・ 研究方法について、アプローチの仕方を提示し、ディスカッションすることができる。		
	6週	研究方法の提示・まとめ 資料別各論・歌集、歌合、歌論 (1)歌論の資料的価値と研究の可能性	・ 研究方法について、アプローチの仕方を提示し、ディスカッションすることができる。 ・ 課題①に取り組む。		
	7週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (2)歌集の資料的価値	・ 歌集、歌合、歌論の関係を学び、代表的な歌合の具体例を知る。 ・ 課題②として、百人一首に関する発表の準備を行う。		
	8週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (2)歌集の資料的価値	・ 歌集、歌合、歌論の関係を学び、代表的な歌合の具体例を知る。 ・ 課題②として、百人一首に関する発表を行い、レポートにまとめることができる。		
	9週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (3)歌論と評価される和歌との関係	・ 歌集、歌合、歌論の関係を学び、代表的な歌合の具体例を知る。 ・ 課題②として、百人一首に関する発表を行い、レポートにまとめることができる。		
	10週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (3)歌論と評価される和歌との関係	・ 課題③の準備として、評価される歌語の組み合わせを考える。		
	11週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (3)歌論と評価される和歌との関係	・ 課題③の準備として、評価される歌語の組み合わせを考える。		
	12週	資料別各論・歌集、歌合、歌論 (3)歌論と評価される和歌との関係	・ 課題③として、評価される歌語の組み合わせを発表し、相互評価することができる。		
	13週	資料別各論・なぞなぞ (1)基本的な用語	・ なぞなぞの基礎的な用語を学び、学習の目的、解法の作成方法を知る。		
	14週	資料別各論・なぞなぞ (2)初級のなぞなぞと解法	・ 初級のなぞなぞを解く		

		15週	資料別各論・なぞなぞ (3)中級・上級のなぞなぞと解法		・中級・上級のなぞなぞを解き、課題④を作成する。 ・最終課題として、これまでの知見と成果をレポートにまとめることができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	10	90	0	100
基礎的能力	0	0	0	10	90	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0